

かわかんネット

発行：一般社団法人 東北河川管理技術研究会事務局

〒980-0802 仙台市青葉区二日町 18-25 シャルム二日町3F

E-mail : triver@ae.auone-net.jp Tel : 022-398-8831 Fax : 022-398-8832

年頭にあたって

東北河川管理技術研究会

会長 吉尾 進

謹賀新年

昨年を振り返りますと豪雪、島根県西部地震（4/9、M6.1、最大震度5強）、大阪北部地震（6/18、M6.1、最大震度6弱）、北海道胆振東部地震（9/6、M7.1、最大震度7）、7月豪雨、大型で猛烈な台風の影響、そして記録的猛暑など日本各地で大規模な自然災害により、多くの方が被災しました。

年末にその年の世相を表す漢字一字が募集（公益財団法人日本漢字能力検定協会）され、第1位に、『災』が選ばれ、京都・清水寺の森清範貫主の揮毫により発表されました。

応募された方々のその理由として、自然災害の脅威を痛感した、災害の経験から全国的に防災意識が高まり、多くの方が自助共助の大切さを認識、他スポーツ界でのパワハラ問題、大学不正入試問題などの事件が発覚し、多くの方がこれらの出来事を災いと捉えたということです。

東北地方の直轄河川においては、5月18日前線の影響により米代川（阿仁合）、雄物川（砂子沢・朝日又沢）、最上川（明神沢）において累加雨量200mmを超える雨量を観測し、雄物川椿川水位観測所7.57mと5月では戦後最大の水位を記録、大仙市では内水により家屋が8戸浸水、8月6日の前線の影響による豪雨では最上川（金山、平根、古口）において累加雨量300mmを超える雨量を観測、特に古口では24時間雨量で366mm、平根で333mmと既往最大の雨量を記録し、新庄市10戸、戸沢村215戸の浸水、8月31日の秋雨前線の影響により最上川（庭月、神田、大中島）において累加雨量200mmを超える雨量を観測し、戸沢村42戸、鮭川村2戸浸水被害があり、いずれの出水において、排水ポンプ車が出動し被害の軽減を図りました。

このように、近年激甚化している災害により全国で大きな被害が頻発している状況から「重要インフラの緊急点検結果及び対策方策」がまとめられ、それらを踏まえ『防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策』が12月14日に閣議決定されました。

その内容は、ソフト・ハード両面から集中的に取り組み、ソフト対策として、災害時に命を守るため、必要な各種リスク情報の徹底周知や国民等の安全確保に資する体制強化等、ハード対策としては、河川・砂防等の防災インフラの機能強化等により被害の防止・最小化等を図るとなっています。

当会は9年目を迎え、現在、一般会員90名並びに企業会員14社で構成されております。

当会には「堤防・河道・樋門樋管・ダム管理」の4分科会があります。本年も、4分科会員の経験と知識が加味された総合的技術力を活用し、河川管理の充実に向けた提言が出来ることを願っております。

講習会

河川管理・ダム管理・流量観測講習会を開催しました。

河川管理・流量観測講習会については、(一社)全国土木施工管理技士連合会の継続学習制度(CPDS)の方は3 unit、(一財)河川技術者教育振興機構の継続学習制度(CPD)に加入されている方には12単位が付与されます。

I. 平成30年度 河川管理講習会

1. 日時 : 平成30年10月15日(月) 13時~16時 盛岡会場
平成30年10月25日(木) 13時~16時 仙台会場
2. 場所 : 岩手県建設会館 建設研修センター
宮城県建設産業会館
3. 受講者 : 盛岡会場 37名
仙台会場 46名 計 83名
4. 講習内容
 - 1) 講話 「河川に関する最近の話題」
 - 2) 講習
 - (1) 樋門等の長寿命化について
 - (2) 堤防の変状把握について
 - (3) 質疑応答



盛岡会場



仙台会場



Ⅱ. 平成30年度 流量観測講習会

1. 日 時 : 平成30年11月21日(水) 13時～16時
2. 場 所 : 宮城県建設産業会館
4. 受講者 : 45名
5. 講習内容
 - 1) 講 話 「次世代型流量観測技術の検討」
 - 2) 講 習
 - (1) 流量観測の留意点について
 - (2) 流量観測の高度化について
 - (3) 質疑応答



Ⅲ. 平成30年度 ダム管理講習会

1. 日 時 : 平成30年12月 1日(土) 13時～16時
2. 場 所 : 宮城県建設産業会館
3. 受講者 : 59名
4. 講習内容
 - 1) 講 話 「ダム管理に関する最近の話題」
 - 2) 講 習
 - (1) 土木技術者としてのダム管理
 - (2) 玉川ダムの管理について
 - (3) 質疑応答



編集後記

今年、己亥（つちのとい）、亥の年は、翌年から始まる成長に備えて、「個人は知識を増やし、精神を育てる」、「組織は、人材育成や設備投資、財務基盤を固める」など、外に向けての活動ではなく、内部の充実を心がけると良い年だそうです。又、亥は無病息災の象徴とされると共に目標に向かって猛進していく人を助ける「火の神の化身」とされています。

近年、自然災害が多発しておりますが、亥年では宝永地震(1707)、関東大震災(1923)、日本海中部地震(1983)、阪神大震災(1995)、中越地震(2007)、カスリン台風（1947）、伊勢湾台風(1959)など大規模な自然災害が発生しております。十分な災害への備えを。

今年もよろしく願いいたします。

(編集 事務局)